

令和2年版環境白書

第4章 環境への負担の少ない循環型社会の推進

第1節 3Rの推進に向けた意識の醸成

1. 3Rの推進に向けた意識の醸成

(2) 県民及び事業者における環境に配慮した取組の推進

(1) 事業目的

質の高い循環型社会を実現するためには、資源の有効活用や循環利用の推進が大切です。海洋プラスチックごみや食品ロスの削減など、新たな課題も視野に入れ、発生抑制、再使用、再生利用（3R）などに社会全体で取り組みます。

(2) 取組状況

① 環境にやさしい消費行動への転換促進

省エネ・省資源の視点で店舗やサービスを選択するなど、消費者が環境にやさしい店舗を積極的に利用する社会を作るため、平成30年度に「しまエコショップ登録制度」を創設しました。

登録店舗と連携し、消費者に向けた情報発信や普及啓発を実施しています。（登録数：601店舗）

また、令和2年3月には、制度創設1周年記念キャンペーンを10店舗で実施し、制度及びプラスチックごみ削減のPRを行いました。

② 県民への意識啓発

県民へ直接ごみ減量化等3Rの意識啓発を行うため、NPO等と連携して県内で開催されるイベントにブースを出展し、パネル展示や体験コーナーを通じてごみ問題への関心を高める取組を実施しました。

- ・ ブース出展イベント（開催日順）

やすぎ環境フェア（安来市）、グラントワキンサイデー（益田市）、いずも産業未来博2019（出雲市）、第26回松江市環境フェスティバル（松江市）、みすみフェスティバル（浜田市）、桜江いきいき祭り（江津市）

③ 「リユース食器」の普及

レジ袋削減に次ぐ新たな3Rの取組としてReduce（リデュース）、Reuse（リユース）の推進強化のために、イベントにおける「リユース食器」※1の使用拡大に取り組みました。

- ・ 県内のイベントにおいて「リユース食器」使用を支援しました。また、学校行事（石見養護学校、三刀屋高校、情報科学高校、平田高校、松江農林高校、出雲商業高校、出雲農林高校）へのリユース食器導入を支援しました。
- ・ リユース食器の概要を紹介するガイドブックやチラシ、パネル等を使い、県内イベントでのリユース食器普及に向けて広報を行いました。

④ 食品ロスの削減

ア 組織的な推進

「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」に加盟し、他自治体との情報共有を行いました。

イ 食品ロスの発生抑制

- ・ 家庭での食品ロス※2を削減するため、県連合婦人会と連携し、余った料理を別の料理へとリメイクする「しまね流食べきりレシピ」を活用した料理教室を開催しました。また、「しまね流食べきりレシピ」のパネルやレシピカードを作成し、市町村の環境イベント等で普及啓発を行いました。
- ・ 宴会での食べ残しを削減するため、新聞等で「30・10運動」※3の広報を行いました。
- ・ 食品ロス削減に関する消費者教育の推進として、出前講座の開催や啓発資料の作成・配布を行いました。

(3) 参考情報

①しまエコショップについて

しまエコショップに関するホームページ

<https://shop.shima-eco.net/>

②リユース食器について

イベントごみ減量に関する県ホームページ

<https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/kankyo/kankyo/junkan/eventgomi.html>

③食品ロスについて

おいしい食べきり運動（食品ロスの削減）に関する県ホームページ

<https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/kankyo/kankyo/junkan/oishiitabekiri.html>

※1. リユース食器

1回使うだけでごみになる使い捨て容器（紙コップ、紙皿、発砲スチロール製どんぶり等）の代わりに使用する、繰り返し洗って再使用（リユース）する食器やカップ、お箸類などの総称

「使い捨てのライフスタイルを見直し、ものを大切に使う心を伝える」リユースの代表的な取組

※2. 食品ロス

本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう食べ物のこと。

※3. 30・10運動

3010運動は、宴会時の食べ残しを減らすための取組の一つ。

「乾杯後30分間は席を立たずに料理を楽しみましょう、お開き10分前になったら、自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう」と呼びかけて、食品ロスを削減する取組。

【担当課】

所属名	問い合わせ先
環境政策課	0852-22-6379